

あぐり最前線



土壌分析をしましょう！

コスト低減に向けて！

J Aでは、肥料の過剰施肥による無駄をなくしコスト低減に繋げるため、土壌分析を毎月実施しています。分析を希望される方は、約1合程度(200g)を採土し、必ず土壌を乾燥させてから袋に入れ、住所氏名TELと、水稻・野菜(キャベツ、ハクサイ、等・果樹(ミカン、カキ、等)など品目を記入して、4月12日(金)までに各営農センターへ「持参ください。分析結果は5月中旬頃に」ご連絡いたします。

市場出荷休日カレンダー (野菜・果樹)

4月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

5月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

×は出荷できない日 □は日曜・祝日等

※防除薬剤のあとの数字は、安全使用基準で、(収穫何日前まで使用可能か/通算使用可能回数)を表しています。農薬は農業安全使用基準を守り、正しく適期に防除してください。

例)表記が(14日/2回)の場合:収穫14日前までに2回使用可能



水稻栽培の時期が近づいてきました。育苗手順を確認して、準備しましょう。

●種もみの準備

種もみは10aあたり3〜4kg準備します。枝梗がついている場合は、あらかじめ脱芒してください。

●塩水選

稔実の良い種もみを得るために実施する重要な作業です。

比重液は食塩や硫酸を使って作りまします。下段の図を参考に選別を行い、浮いた種子を除去し、沈んだものだけを使用します。選別した種子は、流水で洗って塩分を十分取り除いてください。

塩水選

参考

種もみの準備
塩水選(稔実の良いもみを選ぶ)
生卵による比重の見わけ方

塩類添加量(水10ℓあたり)

種類	比重	食塩	硫酸
うるち	1.13	2.00kg	2.56kg
もち	1.08	1.22kg	1.50kg

※塩水選後は十分水洗いしてください。

●種子消毒

育苗中は、病害を発生させないことが大切です。細菌やカビ対策として種子を消毒してください。

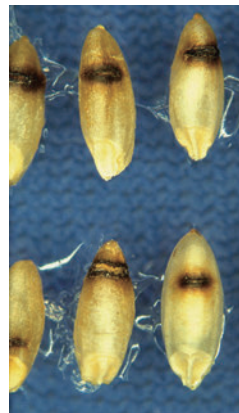
◎ばか苗病・褐条病・もみ枯細菌病・イネシンガレセンチュウ

・モミガードC(水) 200倍

・スミチオン(乳) 1000倍

2種類を加用し、24時間浸漬してください。その後、日陰で半日〜1日風乾してから浸種・催芽作業に入ります。

イネシンガレセンチュウの被害が発生しています。種子消毒を十分に行い、対策をしてください。



イネシンガレセンチュウ

●浸種・催芽

浸種・催芽は水稻栽培で最初に失敗する可能性がある作業です。浸種時間が短いと(積算水温100℃未満)発芽揃いが悪くなります。また、水の入れ替えを怠ると酸欠を起こし、催芽の不揃いや、腐敗に繋がりますので注意しましょう。

もみ全体の80%がハト胸状態になったら、水から出して陰干しします。

ポイント

①水の交換の目安は、浸種3日後の朝からです。2〜3日に1回程度入れ替えましょう。

②播種の前日に水から上げて、水きりをしましょう。

③芽が伸びすぎると播種時に折れるので、1mm程度を目安にしましょう。

④品種により催芽の早さが異なるので、ハト胸状態になったことをよく確認してから播種を行いましょう。

●播種

播種前に床土(約2kg)を均一に入れてください。箱は10aあたり20枚程度必要です。

播種は、床土に十分灌水した後にを行います。播種量は、催芽もみで180g/箱、厚播きすると軟弱徒長苗や病害が出やすくなるので注意しましょう。

播種後は、種もみが見えなくなる程度(約1kg)の覆土をします。覆土の上からの灌水はカビの原因となるため、行わないでください。

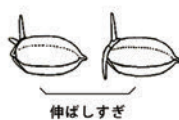
育苗箱の目が粗く床土がこぼれる、根が絡まって育苗箱から取り出すのが大変な場合は、クラパピーなどの防根シートを使用しましょう。



出が足りない



最適



伸ばしすぎ

* 田植時には必ず防根シートをはずしてください。

●育苗

育苗中にカビが発生した場合は、タチガレン(液) 500倍(は種時及び発芽後/2回) または

・ダコニール1000 1000倍(は種時から緑化期但し、は種14日後まで/2回)
を育苗箱1箱あたり500ml散布してください。

キャベツ

気温が高くなるので、裂球と病害虫の発生には十分注意してください。

収穫の終わった圃場は早めにすきこみましよう。

●追肥

※SE(ハクサイあと)

▽結球開始期
・ニューパワーユーキ262(100kg/10a) または
・アツマップ545(100kg/10a)

●病害虫防除

※石井中早生・YR春空
・アクセル(フ) 1000倍(前日/3回)
・バリダシン(液) 5 800倍(7日/5回)

ハクサイ(春どり)

暖かくなるにつれて芯の上がりも早くなるため、適期収穫を心掛けてください。

●病害虫防除

▽4月上旬

・グレーシア(乳) 2000倍(7日/2回)

・コルト(顆) 400倍(3日/3回)

・シグナムWDG 1500倍(7日/3回)

▽4月中旬

・アクセル(フ) 1000倍(前日/3回)

・トランスフォーム(フ) 2000倍(3日/3回)

・バリダシン(液) 5 500倍(3日/3回)

◎石灰欠乏症(アンコ)対策

・パフォームCa 500倍

結球開始期までに適宜散布しましょう。農薬散布と同時に使用できます。

●灌水

乾燥すると外葉の発達が抑えられるばかりでなく、石灰欠乏症(アンコ)およびホウ素欠乏症の発生が懸念されるため通路灌水を行いましょう。

●追肥 ※春さかり・黄葉70

▽被覆資材(パオパオ)除去後

・ニューパワーユーキ262(60kg/10a)

ブロッコリー(春どり)

春は花蕾の肥大が早いので、とり遅れのないように締まりの良い花蕾を収穫します。品質を保つため、できるだけ涼しい時間帯に収穫して、低温で管理しましょう。

●追肥 ※ピクセル

▽花蕾発現期

・ニューパワーユーキ262(60kg/10a)

●病害虫防除

▽4月中旬
・グレーシア(乳) 2000倍(7日/2回)

新ショウガ

・シグナムWDG 1500倍(7日/2回)

●追肥

根の発達を促進するため、追肥を中心とした肥培管理が適しています。

1次茎の葉数が5~6枚頃に第1回目の追肥を行います。以降、収穫期まで1カ月ごとに行います。

●土寄せ

追肥作業と同時に行ってください。肥料の効果を高めるとともに、新しく発生する塊茎の緑化を防ぐことができます。株元に土をかけすぎないように注意してください。

●病害虫防除

◎アワノメイガ

・パダンSG(溶) 1500倍(7日/5回)

◎紋枯病

・バリダシン(液) 5 800倍(14日/4回)

◎根茎腐敗病

発生した株はすみやかに抜き取り、薬剤で防除してください。

・ランマン(フ) 500~1000倍(2~3ℓ/m²)(30日/3回) *土壤灌注

または
・ユニフォーム(粒) 18kg/10a(30日/3回) *定植前作糸土壌混和または生育期土壌表面散布

ピーマン

開花から収穫までの日数は、約15~20

●抽苔の発生

ニンジンとは、本葉8枚の頃に10℃以下の低温にあうことで花芽を作り、その後の長日・高温(10~25℃)で抽苔します。天候をみて、被覆物を除去しましょう。

●裂根の発生

本葉4~5枚の頃に乾燥・低温にあたり、生育後半に温暖・多雨の場合、急激に根が肥大することで発生が多くなります。また、収穫の遅れも発生要因となるため、適期収穫に努めましょう。

●病害虫防除

◎黒葉枯病

雨天が続く、生育が落ちたときに多発します。初期防除が重要です。

・ポリオキシシンAL(水) 500倍(7日/5回)

または

・ヘルクト(フ) 1000倍(14日/5回)

ダイコン

春栽培は、天候により生育スピードが変わるため生育に応じて収穫時期を調整しましょう。

●病害虫防除

◎黒斑細菌病・斑点細菌病・軟腐病

温暖多雨の気候で発生し、土壌伝染・空気伝染により被害が拡大します。春作では発病する可能性が非常に高いため十分注意してください。

▽4月中旬

・カセット(水) 1000倍(14日/3回)

▽4月下旬

日です。たくさん実がついた場合は、早めに収穫し、株の疲労を防ぐことが大切です。収穫が遅れた実は皮が硬くなり、色も悪くなるため注意が必要です。

●病害虫防除

◎灰色カビ病・菌核病

高温多湿で発生が多くなるので薬剤を散布してください。

・ロブラール(水) 1000~1500倍(前日/4回)

◎うどんこ病

発病してからは完全防除がしにくいので、予防的な散布をしてください。

・パレード20(フ) 2000~4000倍(前日/3回)

または

・シグナムWDG 2000倍(前日/2回)

◎アブラムシ類

・ウララDF 2000~4000倍(前日/2回)

・コルト(顆) 4000倍(前日/2回)

●追肥

通路を溝切りしてぼかし肥料などを施す場合は、4月末までに終えましょう。

この時期より遅れると根を傷めます。液肥による追肥は、樹勢に応じて加減し、月2~3回(1回あたり、窒素成分で1~2kg/100本)を基準にしてください。

樹勢が落ちたら、薄い液肥を混ぜて少量灌水にし、芽の出方を確認した上で追肥してください。

●灌水

活着までは株元灌水(手灌水)とし、活着後は灌水パイプで灌水しましょう。生育が進むにつれて水分要求量が増すので

で、灌水パイプと併せて畝間灌水をして乾燥防止に努めてください。

シシトウ

●加温栽培

4月に入ると気温の上昇や太陽光線の強まりで収穫量が増加してきます。

果実の収穫適期は長さ5.5~6cmくらいです。果実が長くならないように注意してください。

●無加温栽培

定植時にアドマイヤー1(粒)1~2g/株を散布していない場合は、アブラムシ類の防除のため

・アドマイヤー(顆) 500~1000倍(前日/2回) を散布してください。

トウガン

●定植(トンネル栽培)

本葉5~6枚の苗を植えます。トウガンは、高温・乾燥に強く、低温・多湿には弱い性質をもちます。畑の準備(畝立てやマルチ)は早めに行い、排水の改善や地温を上げておく準備をしましょう。

また、定植時にホットキャップで保温すると、初期生育を早めることができます。ただし、活着後4月中下旬までは夜間の保温に努めるとともに、日中30℃以上の高温にならないように十分換気を行ってください。

●人工授粉・トンネルの除去

気温が低くハチの飛来が少ないため、早朝に人工授粉を行い、確実に着果させます。

4月下旬、気温が安定したらトンネルをはずします。

青ネギ

4月になり徐々に暖かくなると、病気の発生が多くなります。

●病害虫防除

◎さび病・べと病

・ジマンガイセン(水) 600倍(14日/3回)

または

・アミスター20(フ) 2000倍(3日/4回)

予防的に早めに薬剤を散布してください。

ニンジン

播種後から生育前半にかけて、土壌を過乾燥にさせないように注意してください。

●間引き・追肥

本葉3~4枚の時期に間引きし、その後は遅れないよう追肥をしてください。施肥量は収穫期に近づいて葉の生育がにぶり、少しは色が落ちる程度にすることが品質をよくする方法です。

また、乾燥が続いて葉と根のバランスがくずれ、急にしおれるような場合は灌水をすることが大切です。

農薬使用の基本を守りましょう

農薬の使用方法を必ず確認

- ◆ 農薬登録のある農薬を選び、使用目的にあった農薬を使う。
- ◆ ラベルにある作物以外には使わない、適用内容の範囲で使用する。
- ◆ 使用量・希釈倍数は記載の範囲内で調整し、散布方法を守る。
- ◆ 使用時期、収穫前日数は必ず守る。
- ◆ 農薬の使用回数を確認し、成分ごとの総使用回数を守る。

農薬ラベルの確認ポイント

農薬登録番号のある農薬を使います
人畜や作物への安全性が確認されたものを農林水産省が登録しています

殺虫剤
〇〇〇〇〇〇水和剤

適用内容の範囲で使用します
作物への効果、薬害や残留程度を確認し、使用方法が定められています
使用量・希釈倍数・使用時期、収穫前日数は必ず守ります
有効成分毎の総使用回数を越えないようにします

安全に使用するための注意事項を守ります
保護具の着用、水産動物への影響、水田での7日間の止水管理、農薬の保管管理の徹底など注意すべきことを確認します
有効期限が切れたものは使用しないようにしましょう

効果的な使い方、薬害回避のための注意点などを確認します

使用してよい作物を確認します
ラベルの適用作物欄に記載のない作物には使えません
作物グループの場合は、含まれる作物を確認してください

農薬散布作業は適切に

- ◆ 農薬の使用量・散布方法を確認し、適用の範囲で使う。
- ◆ 散布圃場面積にあわせ、散布液は残らないよう調整する。
- ◆ 農薬飛散防止のための基本的な施用法を実践する。
- ◆ 農薬が周辺に飛散・流出しないよう、圃場管理や7日間の止水管理を徹底する。



作業者の安全・保護具の着用

- ◆ 農薬使用時は、防除衣、農薬用マスク、手袋などの適切な保護具を着用する。
- ◆ 健康管理を日頃から行い、体調を整えて作業を行う。

農薬の保管、防除器具の管理

- ◆ 農薬は専用の保管庫で鍵をかけて管理する。
- ◆ 使用済みの農薬空容器等は適切に処分する。
- ◆ 散布器具は日頃から整備し、使用前の点検、使用後は確実に洗浄する。
- ◆ 廃液などは河川等の水系に流れないように注意する。
- ◆ 最終有効年限が過ぎた農薬は使わないようにする。



防除記録と確認

- ◆ 圃場、作物ごとに日誌を作成し、区別できるようにする。
- ◆ 土壌消毒、種子消毒段階から使用農薬を記録する。
- ◆ 散布日、農薬名(剤型)、希釈倍数、使用量は必ず記録する。
- ◆ 成分ごとの総使用回数は農薬散布前にチェックする。
- ◆ 収穫予定日を確認し、農薬の収穫前使用日数を必ず守る。
- ◆ 病害虫の発生状況、防除効果をメモしておく。

記帳のポイント

ポイント1 日誌は作物・圃場別に
● 農薬使用が異なる作物や圃場は、別々に管理する

ポイント2 使用した農薬は剤型まで正確に記入
● 何回か使用する農薬は、事前に登録内容を記載しておくこと、使用方法の確認が容易になる

ポイント3 収穫スケジュールを記入
● 農薬散布前に収穫日数が守られるか、使用回数オーバーしていないか確認する
● 収穫の定額日も記入しておく

ポイント4 防除内容を記入
● 散布日、希釈回数や使用量、散布水量などを記録ごとに正確に記入

ポイント5 記録メモ
● 防除目的の病害虫の発生状況、気づいたことを記入

特に風あたりの強い園地で多く発生し、山間地で霧の発生しやすいところや低温で水はけが悪いところでも発生しやすくなります。防風垣、もしくは防霜ファンを設置して発生を予防しましょう。毎年発生が見られる園地では、落弁期から防除を行います。

- ・マイコシールド 1500倍 (21日/4回)
- 黒星病・すす斑病

4~5月にかけて雨の多い年に発生が多く、特に低温多湿地や通風の悪い園地は発病しやすいため、排水・通風を良くすることが重要です。防除時期は、肥大初期(4月上旬)と小豆粒大期(4月中旬)に行いましょう。

- ・ナイティボ(フ) 200倍 (前日/2回)
- ▽4月下旬(果実肥大期)
- かいよう病

- ・マイコシールド 1500倍 (21日/4回)
- 黒星病・灰星病
- デラン(フ) 200倍 (14日/2回)
- ケムシ類
- ・マブリック(水) 20 400倍 (21日/2回)

● 実肥

▽4月下旬
生理落果終了時から結実時に、果実肥大と新葉の生育促進のため実肥を施用します。

- エコレット266(50kg/10a)
- 灌水
晴天が1週間以上続き、土壌が乾燥した場合、1樹あたり100ℓ程度灌水してください。

モモ

今月は、開花も満開期を迎え、摘果の時期となります。

● 摘果

果実肥大に差が見られる、満開後40日頃から開始し、硬核期が始まる満開後50日頃までには終了します。樹全体では1~2割増しとしますが、樹勢・品種・剪定程度・地力によって加減し、生理落果の多い品種では2~3割多くします。なお、日川白鳳などの早生品種は果実が小さいので早めの着果制限が必要です。硬核期の仕上げ摘果を重視しましょう。

● 結果枝へのならせ方

結果枝への着果は、短果枝は先端部に、中・長果枝は中央部を中心にならせます。

着果位置と果実品質との関係をみると、いずれも先端に着果させた果実が大きく、糖度も高いです。しかし、中・長果枝では核割れ果や軟肉果の発生が多くなります。また、葉のある部位の果実の品質がすぐれているので、短果枝では枝ずれなどが起きにくい先端部に、中・長果枝では果実品質のぶれが少ない中間部を中心に着果させます。

● 病害虫防除

- ▽4月上旬(満開直後)
- せん孔細菌病
- ・マイコシールド 1500倍 (21日/5回)
- 黒星病・灰星病

- ・トリフミン(水) 1000倍 (前日/3回)
- アプラムシ類・シンクイムシ類
- ・スタークル(顆) 2000倍 (前日/3回)
- ▽4月下旬(新梢伸長期)
- せん孔細菌病
- ・マイコシールド 1500倍 (21日/5回)
- 黒星病・灰星病
- ・ストロビードF 2000倍 (前日/3回)
- アプラムシ類・カイガラムシ類
- ・モスピラン(顆) 2000倍 (前日/3回)

カキ

● 病害虫防除

- ▽4月中旬 ※刀根早生
- フジコナカイガラムシ・カキノヘタムシガ

越冬した害虫は、結果母枝先端の芽や葉柄に集まる習性があります。

● 摘果作業

▽4月下旬
カキは養分吸収を開始する時期が遅く、発芽から開花期までに必要とする養分はほとんど前年に蓄えられた貯蔵養分によってまかなわれています。残す養分は1結果枝に1蕾が基本です。ヘタ4枚が揃い充実した傷のない大きい蕾で、結果枝中部の下向き横向きの蕾を残します。下向きの結果枝や新葉が5枚以下の弱い枝は全て摘果しましょう。遅れ花も、品質がよくないため全て除去しましょう。

ミカン

4月になると気温の上昇とともに病害虫の発生が多くなります。適宜防除に努めてください。雨、風によって伝染する「そうか病」「かいよう病」などの発生に注意しましょう。

● 病害虫防除

▽4月上・中旬(発芽直後)
4~5月頃に雨が降り続いて比較的低温の年は、日照不足によりいつまでも葉が軟弱で病気に侵されやすい状態になります。また、病原菌の活動も盛んな時期です。病原菌は風や雨によって運ばれ、葉や果実の上で発芽し被害が拡大するため薬剤防除が必要です。新芽がわずかに伸びた頃が防除適期です。

● そうか病

- デラン(フ) 1000倍 (30日/3回)

● 摘果

樹勢が弱く、ベタ花になりやすいから早生などでは、発育枝がほとんど出ないため、放置すると枯れこみやすくなります。そのため、主枝先端部を摘果し、五月芽を発生させ樹勢回復を図っていくことも大切です。作業は、蕾が大きくなつて開花始めまでの10日間に行いましょう。

農業振興資金

年 **0.2%** (固定金利) ※令和6年1月4日現在

保証料負担なし

キャンペーン金利

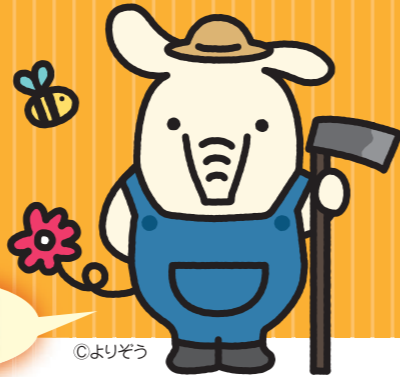
- 農機具に
- ハウスや農業用倉庫に
- 農地の購入・改良に
- 果樹・花木・畜産に



- ご利用いただける方
組合員の方、農業法人、農業団体など
※個人の方のご利用は、原則として、貸出時の満年齢が18才以上かつ返済時の満年齢が80才未満の方に限ります。
- ご融資金額
100万円以上1億円以内
- お使いみち
・農機具(中古農機・軽トラ等を含む)の購入
・ハウスや農業用倉庫の建設
・農地の購入や改良
・果樹や花木等の植栽や育成
・家畜の購入や育成
・発電・蓄電設備の取得
※ただし、発電目的の太陽光発電設備は除きます。
- ご融資期間
20年以内(お使いみちにより異なります)

- ご返済方法
元金均等返済、元利均等返済
(年1回、年2回、または毎月返済)
- 担保・保証
・和歌山県農業信用基金協会の債務保証(場合により担保、保証人が必要となります。)
・保証料(年0.33%)をJAが全額助成します。
※予算枠に達し次第終了となります。(保証料率は令和6年1月現在のもの)
- 基準金利を1.2%(固定金利)とし、借入実行日から最大3年間はJAバンク利子補給(補給率は1%)を適用します。
※金利は金融情勢等の変化により見直しさせていただきます。

- JAバンク利子補給適用終了後は、JAによる1%金利引下げ措置を4年間適用します。
借入実行日から8年目以降の適用金利は年1.2%(固定金利)とします。
- その他
・お申込みの際は、所定の審査をさせていただきます。
審査の結果によっては、ご希望に沿えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。



農業経営をサポートします!!

お問い合わせは、
最寄りの営農センター・支店窓口
または営農指導員・渉外担当者まで

インターネットで
仮申込みができます!

※農業法人、農業団体の方は、JA窓口にてお申込みください。



令和5年産分

「指定野菜価格安定対策事業」 「特定野菜等供給産地育成価格差補給事業」

下記の通り交付されましたのでお知らせします。

事業区分	品目	対象販売期間	交付金額(円)	件数	交付日
指定野菜価格安定対策事業	冬キャベツ	11/1～12/31	177,471	127	令和6年3月19日
	秋冬はくさい	11/1～12/31	378,000	165	
	ほうれんそう	10/1～12/31	1,922,000	42	
特定野菜等供給産地育成価格差補給事業	こまつな	7/1～9/30	41,142	4	令和5年12月8日
		10/1～12/31	312,720	24	令和6年3月15日
	ブロッコリー	10/1～12/31	165,096	72	
	しゅんぎく	10/1～12/31	218,156	5	
合計			3,214,585	439	

生産緑地地区の指定について

生産緑地制度は、市街化区域内において下記の要件に合致する農地を指定することによって、公共空地を含めた緑地の適正な保全を図り、良好な都市環境の形成に資することを目的としています。

○面積要件

- ・一団の農地の面積が500㎡以上であること。

○接道要件

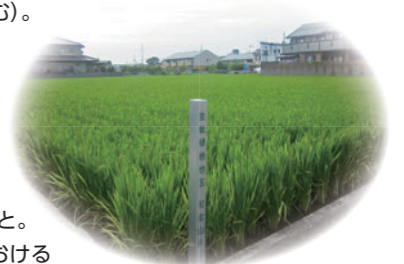
- ・建築基準法第42条第1項各号の道路(同条第2項の要件を満たす「みなし道路」も含む)。
 - ・国、県、市が管理する道路(農道など)。
- これらいずれかの道路に農地が4m以上接していること。

※和歌山市立地適正化計画の居住誘導区域及び都市機能誘導区域外の農地については、接道は不要。

○営農継続要件

- ・用排水の設備が整備されていること。
- ・主たる従事者の年齢が60歳未満であること、もしくは60歳未満の後継者を指名すること。
- ・主たる従事者の経営耕地面積が3,000㎡以上、もしくは主たる従事者の直近3年間における農業収入額の平均が50万円以上であること。

(注) 指定しようとする農地に権利(所有権、抵当権等)が設定されている場合、当該権利者全員の同意を得る必要があります。



生産緑地地区に指定されると

- (1) 農地として管理しなければなりません(原則30年間)。
- (2) 農地転用や建築などが法律により制限されます。
- (3) 翌年度から固定資産税・都市計画税が見直されます。
- (4) 農地内に生産緑地地区の標識が設置されます。

生産緑地地区の指定を受けようとする場合は、必ず審査申込期間内に和歌山市役所まちなみ景観課までお越しください。

申込期間 令和6年5月1日(水)～5月31日(金)(土、日、祝日を除く)
8時30分～17時15分

- 必要書類**
- ①生産緑地地区指定審査申込書
※審査申込書は、まちなみ景観課の窓口にて直接配布、もしくは和歌山市役所HP「生産緑地について」からダウンロードをすることもできます。
 - ②固定資産税納税通知書

【お問い合わせ先：和歌山市役所まちなみ景観課】
住所：和歌山市七番町23(市役所本庁9階) 電話番号：073-435-1082

市役所HP
「生産緑地について」

